

## フランス語の前置詞 *dans* と アクティブ・ゾーン

平 塚 徹

### 要 旨

マイクに向かって話すことを表すフランス語の表現 *parler dans le micro* において、前置詞句はマイクの内部を指しているだけである。英語などの幾つかの言語では、これに対応する表現において、前置詞句がマイクの内部への経路を明示的に表している（英語：*to speak into the microphone*, ドイツ語：*ins Mikrophon sprechen*, チェコ語：*hovořit do mikrofonu*, ロシア語：*govorit' v mikrofon*）。しかし、フランス語では、マイクの内部が経路の着点であることは、推論による解釈の結果なのである。

*parler dans le micro* という表現においては、移動するもの、すなわち「声」が、明示的に表現されず、動詞 *parler*（話す）によって含意されている。この潜在的な参与項は Langacker のアクティブ・ゾーンに対応している。前置詞句は、アクティブ・ゾーンの移動経路の着点に対応する場所を表しているのである。同じ説明は、*souffler dans le micro*（マイクに息を吹きかける）、*se moucher dans un mouchoir*（ハンカチで鼻をかむ）、*vider une bouteille dans l'évier*（びんの中身を流しにあげる）、*mordre dans une pomme*（リンゴをかじる）にも適用される。これらの表現において、アクティブ・ゾーンは、それぞれ、息、鼻腔内の粘液、瓶の中身、歯である。

キーワード：フランス語、前置詞句、*dans*、着点、アクティブ・ゾーン

### 1. はじめに

フランス語の前置詞 *dans* は、内部を表す空間前置詞であり、英語の *in* に概ね対応している。例えば、典型的な用法として、仏英・英仏辞典 *Oxford-Hachette* の以下の用例を見られたい。（本稿では、英仏対訳の例文については、対応する語同士を揃えて、対応関係を分かりやすくする。）

- (1) être { *dans la cuisine / le tiroir / la forêt* } (*Oxford-Hachette*, s.v. *dans*)  
to be in the kitchen / the drawer / the forest

ここで前置詞句は、台所・引き出し・森の内部を表しており、英語では *in* を用いて訳されている。この前置詞 *dans* を含む次の文を見られたい。

- (2) Il faut parler dans le micro. (青木, p. 255)  
しなければならぬ 話す DANS 定冠詞 マイク

この文について、青木（2005）は、次のように述べている。

- (3) [(2)] はマイクを使って話してはいるのだが、マイクの使い方が下手でよく聞こえないような場合の発話である。マイクは拡声機能をもつ機器だが、マイクの端で話してはよく聞こえない。きちんと拡声機能の有効範囲の中で話さなければ、マイクの機能を果たすことができない。つまりよく聞こえないような話し方をしている人は、マイクの有効範囲の外側にいるという解釈である。それに対して *parler dans le micro* はマイクの有効範囲が内部であると理解される。（青木, p. 256）

この考え方だと、前置詞 *dans* の後の名詞句 *le micro* は、マイクそのものよりも、マイクの拡声機能の有効範囲を指していることになる。確かに、メトニミーによりこのようなことが起きていると仮定することは可能である。

ところが、*Oxford-Hachette* は、問題の表現に対して、以下のように英訳を与えている (s.v. *micro*)。

- (4) *parler dans le micro*  
to speak into the microphone

英語では *into* が用いられていることに注目されたい。つまり、フランス語と同様に内部を表す前置詞を使っているものの、それが着点であることが明示されているのである。これは英語だけではない。ドイツ語、チェコ語、ロシア語においても、内部への移動を表す形式が使われる。

- (5) ドイツ語 (*Duden*, s.v. *Mikrofon*)<sup>1)</sup>

ins Mikrofon sprechen  
の中へ - 定冠詞 マイク 話す

- (6) チェコ語 (*SSJČ*, s.v. *mikrofon*)

hovořit do mikrofonu  
話す の中へ マイク

- (7) ロシア語 (『研究社露和辞典』, s.v. *mikrofon*)<sup>2)</sup>

govorit' v mikrofon  
話す の中へ マイク

これは、声がマイクに入るように話すということであろう。そうすると、フランス語の前置詞句も着点に対応しているのではないだろうか。

このように考えれば、前置詞 *dans* の使用を説明するのに、本来はマイクを意味する名詞 *micro* がメトニミーによってマイクの拡声機能の有効範囲を指すようになってきているという仮定をする必要はない。フランス語は、問題の事態について、英語やその他の言語と同じように、「声がマイクに入る」という概念化を行っていることになるのである。

このような考え方に基づいて、本稿では、*parler dans le micro* やそれに類する表現における前置詞句について考察する。構成は以下の通りである。第2節では、前置詞句が移動の着点に対応していることを述べる。第3節では、前置詞句自体は場所を表しているだけであり、それが着点であることは推論による解釈の結果であることを述べる。第4節では、細かな違いはあるものの同じ特徴を有する他の表現を見る。第5節では、前置詞句がアクティブ・ゾーンの移動経路に関わっていることを述べる。第6節では、本稿の議論をまとめる。

## 2. 前置詞句は移動の着点に対応している

*parler dans le micro* の動詞を *parler* (話す) 以外に変えた以下の表現においても、やはり、マイクは声や口笛の音が移動していく着点と考えることができる。

- (8) { chanter / chuchoter / murmurer / crier / siffler }      dans      le      micro  
歌う      ささやく      つぶやく      叫ぶ      口笛を吹く      DANS      定冠詞      マイク

以下の英語の表現と比較されたい。

- (9) sing into a microphone マイクに向かって歌う (『活用』, s.v. *sing*)  
(10) scream [yell] into a microphone マイクに向かって叫ぶ (『活用』, s.v. *microphone*)

マイクを電話に変えても、同じような表現を作ることができる。

- (11) { parler / chanter / chuchoter / murmurer / crier / siffler }  
話す      歌う      ささやく      つぶやく      叫ぶ      口笛を吹く  
dans      le      téléphone  
DANS      定冠詞      電話

この場合も、電話が着点であると考えられる<sup>3)</sup>。

前置詞句が声の着点に対応していると考えれば、次の例も理解できる。

- (12) parler directement dans le micro  
話す まっすぐに DANS 定冠詞 マイク

ここでは、副詞 *directement* (まっすぐに) は、「マイクの中へ」という経路に関連して解釈される。しかし、前置詞句 *dans le micro* がマイクの拡声機能の有効範囲の中を表しているとする、この副詞の意味を説明できなくなる。

これまでの例においては、声などの音が問題になっていたが、息についても同じ表現ができる。

- (13) souffler dans le micro  
息を吹く DANS 定冠詞 マイク

- (14) He blew into the microphone. (音が出るかどうか) マイクにフーフー息を吹きかけた  
(『活用』, s.v. *microphone*)

ここでは、前置詞句がマイクの拡声機能の有効範囲の中を表しているという解釈がそもそも成り立ちえない。というのも、拡声機能の有効範囲の中で息を吐いても、それがマイクに向かっていなければ、意味をなさないからである。よって、マイクは息の着点であると考えられる。

以下の例においても、前置詞句は息の移動経路の着点に対応している。

- (15) souffler dans une trompette  
息を吹く DANS 不定冠詞 らっぱ  
(*Robert*, s.v. *souffler*)

- (16) souffler dans le ballon ( de l'alcootest)  
息を吹く DANS 定冠詞 風船 の 定冠詞 - アルコール検知器  
(*Robert*, s.v. *souffler*)

- (17) souffler dans ses doigts ( pour les réchauffer)  
息を吹く DANS 自分の 指 ために それらを 温める  
(*Robert*, s.v. *souffler*)

最後の例では、前置詞句は、指そのものの内部ではなく、両手の指を口の前で揃えて作ったくぼみの中を表していると考えられる<sup>4)</sup>。

動詞 *souffler* (吹く) が取る前置詞句 *dans le micro* は着点に対応しているが、このことを利用して、動詞 *parler* (話す) が取る前置詞句 *dans le micro* も着点に対応していることを示すことができる。まず、次の文を見られたい。

- (18) Pour voir si le micro marche,  
 ために 見る かどうか 定冠詞 マイク 作動する  
 il suffit de parler dedans.  
 非人称主語代名詞 十分である DE 話す DEDANS

ここで、*de* は、非人称構文の意味上の主語である不定詞を導く前置詞である。また、*dedans* は《*dans* + 名詞句》の代用表現である。名詞句 *le micro* (マイク) が既出であるため、*dans le micro* の代わりに *dedans* を用いているのである。

この文は、マイクをテストするには、それに向かって話せば良いという意味であるが、(3)の青木の考えに従えば、*dedans* はマイクの拡声機能の有効範囲の中を表していることになる。ところが、動詞を *parler* (話す) から *souffler* (息を吹く) に置き換えた次の文の *dedans* は、上述の通り、マイクの中でなければならない。

- (19) Pour voir si le micro marche, il suffit de souffler dedans.  
 DE 息を吹く DEDANS

そうすると、両方の文を元に作った次のような等位接続の文を考えると、*souffler* (息を吹く) が用いられていることから、*dedans* はマイクの中でなければならない。

- (20) Pour voir si le micro marche, il suffit de parler ou de souffler dedans.  
 DE 話す あるいは DE 息を吹く DEDANS

もし、*parler* (話す) が取る *dedans* がマイクの拡声機能の有効範囲の中を表しているとする、*dedans* の指示に矛盾が生じる。よって、*parler* (話す) が取る *dedans* もマイクの中でなければならないのである。これは、声の移動経路の着点である。言い換えると、*parler dans le micro* という表現は、声がマイクに入るように、マイクに向かって話すという意味なのである。

以上、本節では、*parler dans le micro* 等の表現では、前置詞句が着点に対応していることを述べた。

### 3. 前置詞句自体は場所を表しているだけである

これまでの例を見ていると、前置詞 *dans* は、「～の中へ」という意味を表していると思われるかも知れない。確かに、この前置詞は、英訳などで、*into* などの内部への移動を表す前置詞で訳されている。しかし、訳文において、*into* などと訳されるからと言って、その前置詞が

intoと同じ意味を有するとは限らない<sup>5)</sup>。以下では、むしろ、前置詞 *dans* 自体は、内部を表しているだけであることを論ずる。

例えば、次の文を見られたい。

- (21) Si tu souffles dans l'harmonica, ça donne des notes.  
もし 君が 吹く DANS 定冠詞-ハーモニカ それ 与える 不定冠詞 音

これは、「ハーモニカに息を吹き込むと音が出る」という意味である。このような例を見ると、前置詞 *dans* は「～の中へ」という意味を表していると思われるかも知れない。

ところが、ハーモニカは、吹くだけでなく、吸うことによっても音を出すことができる。そこで、動詞を入れ換えて、「息を吸うと音が出る」という意味の文を作る。

- (22) Si tu aspirés dans l'harmonica, ça donne des notes.  
もし 君が 吸う DANS 定冠詞-ハーモニカ

この文では、動詞が *souffler* (吹く) から *aspirer* (吸う) に変わっているが、前置詞は *dans* のままで構わない。このような用法の *dans* を見ると、今度は、「～の中から」という意味を表していると思われるかも知れない。しかし、これも訳文に引ばられた解釈である。というのも、次のような文を作ることができるからである。

- (23) Si tu souffles ou aspirés dans l'harmonica, ça donne des notes.  
もし 君が 吹く あるいは 吸う DANS 定冠詞-ハーモニカ

ここでは、動詞 *souffler* (吹く) と動詞 *aspirer* (吸う) を接続詞 *ou* (あるいは) で等位接続しているが、前置詞句 *dans l'harmonica* は兼用されている。この場合、*souffler* (吹く) が取る *dans* は「～の中へ」という意味で、*aspirer* (吸う) が取る *dans* は「～の中から」という意味であると考え、矛盾が生じるのである。この矛盾を解消するには、*dans* 自体は、内部を意味しているだけであると考えべきである。

動詞 *souffler* (吹く) は、息を口から外へ出すことを表している。他方、前置詞句 *dans l'harmonica* はハーモニカの内部を表している。しかし、この前置詞句が動詞 *souffler* と組み合わせられると、息の移動の着点に対応していると解釈されるのである。また、動詞 *aspirer* (吸う) は、息を口に吸い込むことを表している。そして、前置詞句 *dans l'harmonica* は、動詞 *aspirer* と組み合わせられると、息の移動の起点に対応していると解釈されるのである。

同じことは、マイクに向かって話す場合の *parler dans le micro* にも当てはまる。(20) (以下

に再掲) で見たとおり, *parler* (話す) と *souffler* (息を吹く) を等位接続して, *dans le micro* の代用表現 *dedans* を兼用することができる。

(24) Pour voir si le micro marche, il suffit de parler ou de souffler dedans.  
DE 話す あるいは DE 息を吹く DEDANS

ここでは動詞 *souffler* が用いられていて, *dedans* はマイクの内部を表している。よって, 動詞 *parler* に対しても *dedans* はマイクの内部を表していると考えられる。*parler* は「話す」という意味であり, 口から声を出すことを含意している。そこにマイクの内部を表す *dans le micro* が組み合わせられると, その声の移動の着点に対応していると解釈されるのである。

「マイクの中へ」という声の移動経路は, 次のようにあらわされる<sup>6)</sup>。

(25) [ TO [ IN [ MICROPHONE ] ] ]

これは, 英語では, *into the microphone* と表される ((4) 参照)。つまり, TO と IN の両方を表す前置詞 *into* が用いられている。ドイツ語・チェコ語・ロシア語でも, (5)-(7) で見たとおり, やはり, 内部への移動を表す前置詞が用いられる。ところが, フランス語では, 前置詞 *dans* 自体は IN を表すだけなのである。声移動することは, 動詞 *parler* (話す) によって含意されており, 前置詞句はこの動詞と組み合わせられると, 移動の着点に対応すると解釈されるのである。

*parler dans le micro* (マイクに向かって話す) の前置詞句は声の移動の着点に対応しているが, この前置詞句は「マイクの中へ」という意味ではなく, 単にマイクの内部だけを表している。そうすると, 単に内部を表す前置詞句が着点に対応していると解釈されるとはどのようなことなのかと疑問に思われるかも知れない。

この疑問は, 次のように言い換えることもできる。(25) に示したとおり, 「～の中へ」という経路には TO と IN という2つの要素があるが, フランス語の前置詞 *dans* は IN だけを表している。そうすると, TO は, どこから出て来るのか。

*parler* (話す) という動詞は, 声は口から外へと移動することを含意している。動詞の表している意味の中に声の移動が含まれているために, 前置詞の表しているマイクの中という場所が, その移動の着点であると推論されるのである。

言い換えると, 前置詞句 *dans le micro* 自体は, [ IN [ MICROPHONE ] ] という場所を表しているだけなのだが, 声の移動を含意している動詞と組み合わせられることによって, 推論により TO が補われて, 文全体が表している事象の中では, [ TO [ IN [ MICROPHONE ] ] ] という解釈が出てくるのである。

その他の表現の場合も、動詞が、声や口笛の音、あるいは息が口から外へと移動することを含意しているために、推論により前置詞句がその着点に対応しているという解釈が生ずるのである<sup>7)</sup>。

実際、マイクの内部が声、口笛の音、息の移動の着点と解釈されるのは、マイクについての百科事典的な知識に基づいている。例えば、次の文では、洞窟や部屋は、声の着点ではなく、話すという行為が行われる場所として解釈される。

(26) Il a parlé dans la { grotte / salle }.

彼は 話した DANS 定冠詞 洞窟 部屋

これに対して、マイクだと着点と解釈されるのは、まさしくマイクについての百科事典的な知識によるものと考えられる。また、たとえマイクであっても、マイクに入ってしまうような小さな人間や、人間が入れるような巨大なマイクを想像すれば、行為が行われる場所としての解釈も考えられるであろう。これは、前置詞句が表している場所が着点に対応するという解釈が、知識や状況に基づいた推論によるものであることを示している。

以上、本節では、前置詞句自体は場所を表しているだけであること、また、それが着点に対応しているのは、動詞との組み合わせから推論により生ずる解釈であることを述べた。

## 4. 類例

本稿で扱っている前置詞句の特徴は、明示的に言語化されていない要素の移動経路に関わっていることである。例えば、マイクに向かって話すことを表す場合、前置詞句は声の移動経路に関わっているが、声自体は「話す」という動詞に含意されているものの、名詞句によって指示されていない。フランス語では、前置詞句は着点に対応しているだけなのに対して、英語では経路を表現しているところが異なっているが、いずれにしても、言語化されていない要素の移動経路に関わっている。本節では、詳細は異なっているものの、同じ特徴を有すると考えられる例を見ていく。

### 4.1. 鼻をかむ・咳をする・くしゃみをする

鼻をかむことをフランス語では *se moucher* というが、ハンカチを用いた場合、前置詞 *dans* が使われる。

(27) *se moucher dans un mouchoir*

鼻をかむ DANS 不定冠詞 ハンカチ

ハンカチではなをかむ (『仏和大辞典』, s.v. *moucher*)



前置詞句は鼻をかむという行為を行う場所を表していると考えられるかも知れない。また、実は道具を表しているのではないかと思われるかも知れない。あるいは、山田（1998, 2005, 2007）のように道具と場所の中間領域を想定する場合には<sup>8)</sup>、その例になっていると思われるかも知れない。

しかしながら、本稿では、そのいずれとも異なる解釈を主張したい。というのも、マイクに向かって話す場合と同様に、他の言語においては、「～の中へ」という表現が見られるからである。次は、英語の場合である<sup>9)</sup>。

(28) *blow one's nose into a handkerchief* ハンカチで鼻をかむ (『活用』, s.v. *handkerchief*)

チェコ語やロシア語においても、やはり、内部への移動を表す表現が用いられる。

(29) チェコ語 (SSJČ, s.v. *smrkati*)

*smrkat do kapesníku*  
鼻をかむ の中へ ハンカチ

(30) ロシア語 (Ožegov, s.v. *smorkat'sja*)

*smorkat'sja v nosovoj platok*  
鼻をかむ の中へ ハンカチ

鼻をかむという行為は鼻腔内の粘液を呼気によって排出することである。「ハンカチの中へ」というのは、排出された粘液の移動経路を表していると考えることができる。フランス語の場合は、前置詞句は、排出された粘液の着点に対応していると考えることができる。しかし、いずれの言語においても、前置詞句は、明示的に名詞句で指示されていない鼻腔内の粘液の移動経路に関わっているのである。

口や鼻からの放出を伴う他の生理現象を表す動詞も前置詞 *dans* を取る。

(31) { *tousser / éternuer* }      *dans un mouchoir*  
咳をする くしゃみをする    DANS 不定冠詞 ハンカチ

(32) { *tousser / éternuer* }      *dans ses mains*  
DANS 自分の 手

(32) の前置詞句は、両手で作ったくぼみの中を表している。これらの例においても、前置詞句は、咳やくしゃみの着点に対応していると考えられる。

ハンカチに咳やくしゃみをする場合、英語ではやはり *into* が用いられており、前置詞句が経

路に関わっていることが明示的に分かる。

(33) cough into a handkerchief ハンカチを口に当ててせきをする

(『活用』, s.v. *cough*)

(34) sneeze into one's handkerchief (口に当てた) ハンカチにくしゃみをする

(『活用』, s.v. *sneeze*)

咳やくしゃみの場合も、移動物は名詞句としては指示されていない。

#### 4.2. 容器の中身をあける

動詞 *vider* は容器などを空にすることを表す動詞である。

(35) Vide ce seau dans l'évier.

空にする この バケツ DANS 定冠詞 - 流し

このバケツの中のを流しにあげなさい (『ロワイヤル』 s.v. *vider*)

ここでは、容器の内容物が移動しているのだが、その内容物が明示的に言語化されていない。日本語では内容物を明示的に言語化しているが、フランス語ではこれは不要なのである。前置詞句は、この内容物の移動の着点に対応している。以下の (36) と (37) では、英訳において *into* が用いられているが<sup>10</sup>、やはり、移動物は明示的に指示されていない。

(36) vider une bouteille dans l'évier

to empty a bottle into the sink

(*Oxford-Hachette* s.v. *vider*)

(37) vider un sac dans qch

to empty a bag into sth

(*Oxford-Hachette* s.v. *vider*)

(qch と sth は、それぞれ, *quelque chose* と *something* の略)

話す・息を吹く・鼻をかむなどの例では、主語の指示対象が移動の起点になっていたが、ここで見ている例では、直接目的語の指示対象が移動の起点になっている点が異なっている。しかしながら、前置詞句が明示されていない要素の移動経路に関わっている点は同じである。

## 4.3. かじる

かじることを表す動詞 *mordre* は、かじる対象を直接目的語として取るが、前置詞 *dans* を用いる場合もある。*Oxford-Hachette* では、やはり、*into* を用いて訳されている。

- (38) *mordre dans une pomme*  
 to bite into an apple  
 (*Oxford-Hachette* s.v. *mordre*)

*croquer* という動詞も *dans* を取ってかじることを表すが、やはり、英訳では *into* が用いられている。

- (39) *croquer dans une pomme*  
 to bite into an apple  
 (*Oxford-Hachette* s.v. *croquer*)

ドイツ語やチェコ語でも、内部への移動を表す表現が用いられている。

- (40) ドイツ語 (*Duden*, s.v. *beißen*)  
 er biß in den Apfel  
 彼は かじった の中へ 定冠詞 りんご

- (41) チェコ語 (*SSJČ*, s.v. *kousati*)  
 kousat do jablka  
 かじる の中へ りんご

かじるという行為においては、歯が対象の内部へと食い込んでいくが、歯そのものは「かじる」という動詞によって含意されているだけで、明示的に言語化されていない。いずれの言語においても、前置詞句は、その歯の移動の経路に関わっている。

ただし、「かじる」という動詞の場合には、歯が何かの内部へ移動することまで動詞によって含意されている点に注意されたい。この場合には、前置詞句は、その「何かの内部へ」というのが、何の内部なのかを明確にすることになる。これまでの例では、そのようなことはなかった。例えば、「マイクに向かって話す」という場合、「話す」という動詞には、声が何かの中に入るという含意は無かった。

このような細かい相違はあるが、前置詞句が関わっている移動物である「歯」は「かじる」という動詞に含意されているだけで、名詞句で指示されていないという点は変わらない。

#### 4.4. まとめ

本節で見てきた例においては、マイクに向かって話すことを表す場合と同様に、明示的に言語化されていない要素の移動が動詞によって含意されており、前置詞句はその移動経路に関わっている。また、英語などでは、その経路は前置詞句によって直接表されるが、フランス語では、前置詞句自体は場所を表すだけである。

### 5. 前置詞句はアクティブ・ゾーンの移動に関わっている

#### 5.1. 前置詞句が関わる参与項

経路に関わる前置詞句は、フランス語のように着点に対応しているにせよ、英語のように経路を表すにせよ、主語や直接目的語の指示対象の移動経路に関わっているのが通常であるように思われる。例えば、英仏・仏英辞典 *Oxford-Hachette* から、経路に関わっているフランス語の *dans* が英語で *into* を用いて訳される場合を幾つか見る。

(42) *tomber dans une rivière (Oxford-Hachette, s.v. tomber)*  
to fall into a river

ここでは、前置詞句は、主語の指示対象の移動の経路に関わっている。次の例も同様である。

(43) *sauter dans un taxi (Oxford-Hachette, s.v. sauter)*  
to jump/hop into a taxi

これらの例は、主語の指示対象の移動を表す自動詞の場合であったが、目的語の指示対象の移動を表す他動詞の場合でも、同じことが成り立つ。

(44) *introduire une clé dans une serrure (Oxford-Hachette, s.v. introduire)*  
to insert a key into a lock

ここでは、前置詞句は、直接目的語の指示対象の移動に関わっている。次の例も同様である。

(45) *charger des bagages dans une voiture (Oxford-Hachette, s.v. charger)*  
to load luggage into a car

これらの例では、移動物は主語ないし直接目的語の指示対象である<sup>11)</sup>。何かが移動している

事象においては、移動物が注意を引き、主語や直接目的語になりやすいであろう。よって、前置詞句が移動経路に関わる場合、主語や目的語の指示対象の移動経路に関わるのがごく自然だと考えられる。

しかし、本稿で扱っている例においては、移動物は主語や直接目的語のような顕在的な項ではなく、事象の潜在的な参与項である。例えば、*parler dans le micro* (マイクに向かって話す) では声、*se moucher dans un mouchoir* (ハンカチで鼻をかむ) では鼻腔内の粘液、*vider une bouteille dans l'évier* (瓶の中身を流しにあける) においては瓶の内容物、*mordre dans une pomme* (りんごをかじる) においては歯である。つまり、経路に関わる前置詞句が、主語や直接目的語の指示対象が移動していく着点に対応しているのではないのである。これは、ラネカーの認知文法に則って言えば、「アクティブ・ゾーン」が「プロファイル」と一致していないためである。

## 5.2. アクティブ・ゾーン

次の二つの文を比べられたい。

(46) The spacecraft is now approaching Uranus. (Langacker, 1990, p. 190)

(47) Your dog bit my cat. (*ibid.*)

(46) においては、主語である宇宙船の全ての部分が、目的語である天王星の全ての部分に接近していつている。これに対して、(47) においては、噛むという事象に、主語である犬や目的語である猫の全ての部分が同程度に関与している訳ではない。実際には、犬の歯が、この動物の他の部分よりも噛むという事象に関与している。また、噛んだのが猫の尻尾であれば、その部分が他の部分よりも噛むという事象に関与している。主語や目的語として指示されているのは、犬や猫という動物の全体であり、これが「プロファイル」である。これに対して、事象により関与している犬の歯や猫の尻尾が「アクティブ・ゾーン」である。

「アクティブ・ゾーン」は、「プロファイル」の一部であるとは限らない。

(48) She heard the piano. (Langacker, 1990, p. 189)

この例では、ピアノが目的語として指示されているので、「プロファイル」であるが、hear という事象に関与している「アクティブ・ゾーン」は、ピアノ自体ではなく、ピアノが出した音である。

このように、「プロファイル」と「アクティブ・ゾーン」が一致していない場合、主語や目的語として「プロファイル」になっていないにもかかわらず、顕著な移動をしている「アクティブ・ゾーン」が存在しうるのである。それが、*parler dans le micro* (マイクに向かって話す) では声、

se moucher dans un mouchoir (ハンカチで鼻をかむ) では鼻腔内の粘液, vider une bouteille dans l'évier (瓶の中身を流しにあける) においては瓶の内容物, mordre dans une pomme (りんごをかじる) においては歯なのである。そして, 着点に対応する前置詞句は, 「プロフィール」ではなく, 「アクティブ・ゾーン」である潜在的参与項の移動の着点に対応するのである<sup>12)</sup>。

### 5.3. スキーマ表示

以上論じてきたことを, マイクに向かって話す場合や鼻をかむ場合のように主語が何かを放出することを含意する場合を代表例として, スキーマ表示する。

先ず, 英語の場合は, 図1のようになる。左下にある動詞Vのスキーマにおいては, 主語(大きな円)はプロフィールされているが, 声や鼻腔内の粘液といった移動物(小さな円)はアクティブ・ゾーンであり, プロファイルされていない。このスキーマ表示において, プロファイルは太い枠線で, アクティブ・ゾーンは網掛けで表されている。他方, 右下にある前置詞intoのスキーマにおいては, トラジェクター(小さな円)がランドマーク(大きな円)の内部へと移動している。そして, 動詞Vのスキーマ内の移動物は前置詞intoのスキーマ内のトラジェクターとマッチングされる。また, 動詞Vのスキーマ内の移動物の移動が, 前置詞intoのスキーマ内のトラジェクターの移動にマッチングされる。これらのマッチングは, 二つのスキーマ

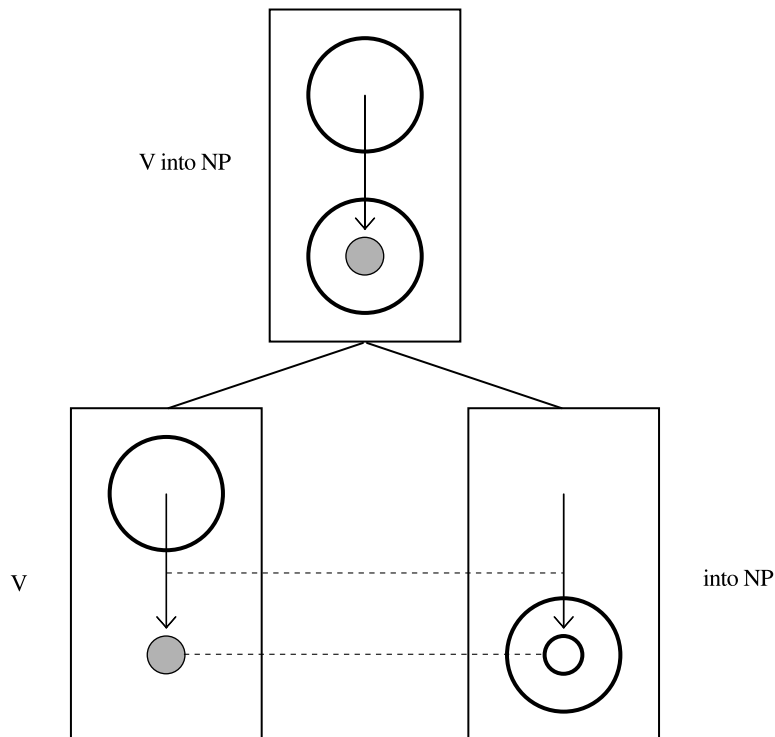


図1

マの間の破線で表されている。このようにして、V into NP という表現が合成されるのである（上にあるスキーマ）。

他方、フランス語の場合は、図2のようになる。左下にある動詞Vのスキーマについては、英語の場合と同じである。他方、前置詞については、移動を含まない *dans* が用いられる。この前置詞はトラジェクターがランドマークの内部にあることを表している（右下のスキーマ）。ところが、これが推論により動詞Vが含意する移動の終結状態であると解釈される。よって、動詞Vのスキーマにおいて移動の終結状態にある移動物が、前置詞 *dans* のスキーマのトラジェクターとマッチングされて（破線）、V *dans* NP という表現が合成される（上にあるスキーマ）。

以上は、主語が何かを放出することを含意する動詞の場合であるが、それ以外の場合には、細かい相違点が出て来る。例えば、容器の中身をあける場合には、移動物の起点が主語ではなく、目的語の指示対象になる。また、かじる場合には、動詞のスキーマに歯が食い込んでいくものが予め含まれており、それが前置詞 *dans* のスキーマのランドマークとマッチングされる。しかしながら、移動物がアクティブ・ゾーンであることは同じである。また、英語の場合には、前置詞 *into* のスキーマが内部への移動を表しているのに対して、フランス語の場合には、前置詞 *dans* のスキーマは単に包含関係だけを表しており、それが推論により動詞Vのスキーマが含意する移動の終結状態と解釈されて、スキーマの合成が行われることにも変わりはない。

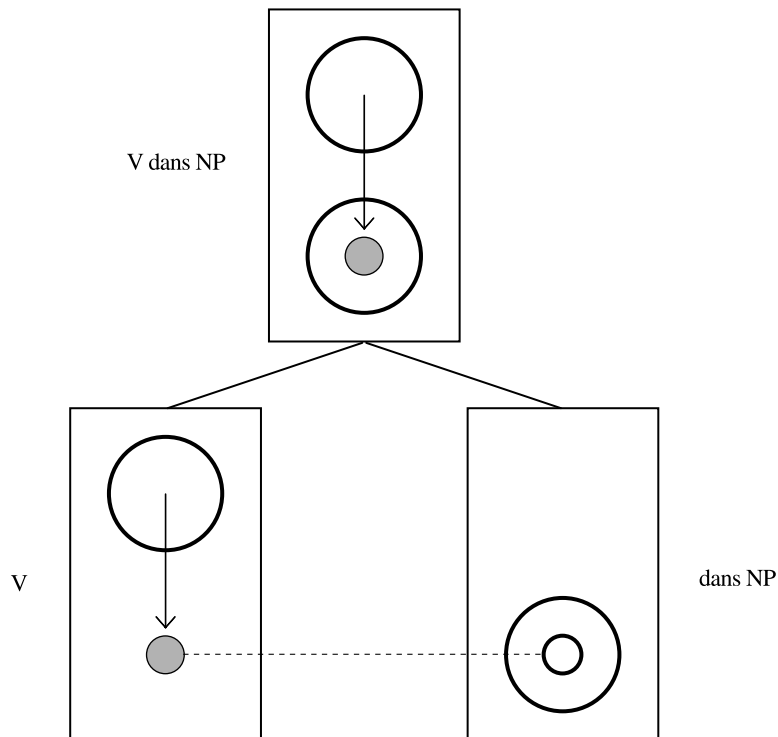


図2

## 6. まとめ

マイクに向かって話すことを表すフランス語の表現 *parler dans le micro* において、前置詞句は、声の移動の着点に対応している。英語・ドイツ語・チェコ語・ロシア語の同意表現においては、移動が関与していることが前置詞句によって明示的に表されている。しかし、フランス語においては、前置詞 *dans* は内部を意味するだけであり、それが移動の着点に対応することは動詞の意味もあわせて推論することにより生ずる解釈なのである。

また、*parler dans le micro* においては、前置詞句が、主語や目的語のような顕在的な項ではなく、事象の潜在的な参与項の着点に対応している。これは、プロファイルとアクティブ・ゾーンが一致していないために起きていることである。同じように、前置詞句は、*souffler dans le micro* では息の着点に、*se moucher dans un mouchoir* では鼻腔内の粘液の着点に、*vider une bouteille dans l'évier* においては瓶の内容物の着点に、*mordre dans une pomme* においては歯の着点に対応している。

## 注

- 1) *ins* は前置詞 *in* と定冠詞 *das* の縮約形。ここでは、前置詞 *in* は対格を取っているので、「～の中へ」という意味になっている。これは、与格を取って「～の中で」という意味になる場合と対立している。
- 2) ここでは、前置詞 *in* は対格を取っているので、「～の中へ」という意味になっている。これは、所格（スラブ語学の用語では「前置格」）を取って「～の中で」という意味になる場合と対立している。支配する格によって意味が変わるのは、注1のドイツ語の場合と同様である。
- 3) より詳細には受話器の部分が着点であるが、ここでは、電話を指す語が用いられている。これは、本文でも後に出て来るプロファイルとアクティブ・ゾーンのずれである。つまり、電話がプロファイルになっているが、アクティブ・ゾーンは受話器なのである。
- 4) 代わりに英語の *on* に相当する前置詞 *sur* を用いて、*sur ses doigts* と言うことも可能だが、この場合には、指の表面へと息を吹きかけるという捉え方がされている。
- 5) 前置詞 *dans* に、「～の中へ」という意味を認めることには、問題がある。例えば、次の文を見られたい。
  - (i) Il a dansé dans la salle.  
彼は 踊った DANS 定冠詞 部屋  
この文は、「部屋で踊った」という意味にはなるが、「踊りながら部屋に入った」という意味にはならない。次の英語の文と比較されたい。
  - (ii) She danced slowly into the room.  
ゆっくりと踊りながら部屋に入っていった（『活用』, s.v. *dance*）  
もし、フランス語の *dans* も、英語の *into* と同様に「～の中へ」という意味があるのであれば、(i) も「踊りながら部屋に入った」という意味にもなりうることになる。しかし、実際には、そのような意味は無いのである。このことは、*dans* には、「～の中へ」という意味がないことを支持している。
- 6) これは、以下のような経路の一般的な構造に準ずるものである。
  - (i) 経路関係 <位置関係 <基準物>> (松本, 1997, 130)
  - (ii)  $[_{Path} \text{PATH-FUNCTION} ([_{Place} \text{PLACE-FUNCTION} ([THING])])]$  (Jackendoff, 1983, 161–170)  
これは、Talmy (pp. 53–56) の Vector / Conformation の区別にも対応している。
- 7) (22) および (23) でみた、「吸う」という動詞 *aspirer* の場合も、方向は逆だが、同じことが起きている。つまり、前置詞句 *dans l'harmonica* は、ハーモニカの内部、すなわち [ IN [ HARMONICA ] ] し



か表していないが、息を外から口の中へと移動することを意味する動詞 *aspirer* と組み合わせられて、推論により、[ FROM [ IN [ HARMONICA ] ] ] という解釈が生ずるのである。

- 8) この考え方に対する批判は、平塚 (2006, 2008, 2010) を見られたい。
- 9) *into* 以外に、*with* や *on* も可能である (『活用』, s.v. *handkerchief*, 『新英和』, s.v. *blow*)。 *with* の場合は、ハンカチは道具として標示されている。 *on* の場合には、鼻腔内から排出された粘液がハンカチに付着することを表しているのであろう。なお、ハンカチでなく、ティッシュの場合も *into* が用いられる。
- (i) *blow one's nose into a tissue* ティッシュで涙をかむ (『新和英』, s.v. かむ)
- 10) (36) は、*to empty a bottle down the sink* も可能である。
- 11) 移動物が主語や直接目的語の指示対象である場合にも、フランス語の前置詞 *dans* は「～の中へ」という意味ではなく、単に内部を表している。例えば、次の文は、誰かが開かずの間に入ったことを意味している。

(i) Il y a quelqu'un qui a osé entrer dans cette salle condamnée.

いる 誰か 関係代名詞 大胆にも～した 入る DANS その 開かずの間

しかし、次の文では、誰かが開かずの間で踊ったことを述べていて、踊りながら開かずの間に入ったという意味はない。

(ii) Il y a quelqu'un qui a osé danser dans cette salle condamnée.

踊る

この2つの文を、等位接続を用いて次のようにまとめることができる。

(iii) Il y a quelqu'un qui a osé entrer et danser dans cette salle condamnée.

入る そして 踊る

これより、*entrer* が取る前置詞 *dans* も、それ自体としては、単に内部を表していると考えられる。これは、主語の指示対象に関わる場合であるが、直接目的語の指示対象に関わる場合でも同じである。例えば、次の文は、鍵を錠に差し込まなければならないことを意味している。

(iv) Il faut introduire la clé dans la serrure.

しなければならない 差し込む 定冠詞 鍵 DANS 定冠詞 錠

他方、次の文は、鍵を回さなければならないことを述べており、前置詞句は単に錠の内部を表している。

(v) Il faut tourner la clé dans la serrure.

回す

この両者を等位接続を用いて合わせると、次のようになる。

(vi) Il faut introduire et tourner la clé dans la serrure.

差し込む そして 回す

これより、動詞 *introduire* (入れる) が取る前置詞 *dans* 自体も単に内部を表しているだけであると考えられる。

- 12) 次の例文においても、前置詞句が、プロファイルではなく、アクティブ・ゾーンに関与していると考えられる。

(i) fouiller dans les poches.

探る DANS 定冠詞 ポケット

ここでは、「手」がアクティブ・ゾーンになっている。ただし、「ポケットの中」は、「手」の移動の着点ではなく、「手」が活動する場所になっている。次の例も同様に考えることができる。

(ii) jurer sur { la Bible / le crucifix }

誓う SUR 定冠詞 聖書 定冠詞 十字架

{聖書/十字架} にかけて誓う

これは、英語の *to swear on the Bible* に対応する表現であるが、聖書や十字架の上に手を置いて誓いを立てていた慣習に基づいている (cf. *DMF*, s.v. *jur*). その意味では、前置詞句は本来はやはりアクティブ・ゾーンである「手」の位置を表していたと考えられる。

## 参考文献

- 青木三郎 (2005) 「日仏語の空間表現の対照的研究」『フランス語学研究の現在』白水社, pp.255-256.
- 活用 = 新編英和活用大辞典 (1995) 研究社.
- 研究社露和辞典 (1988) 研究社.
- 新和英 = 研究社 新和英大辞典 第6版 (2002) 研究社.
- 新英和 = 研究社 新英和大辞典 第5版 (2003) 研究社.
- 平塚 徹 (2006) 「飲食動詞と場所補語」『フランス語学研究』40, pp.14-22.
- (2008) 「飲み物の容器の表現について. フランス語の場合と言語間に見られる差異」『京都産業大学論集. 人文科学系列』38, pp.34-49.
- (2010) 「道具として解釈される場所前置詞句」『フランス語学研究』44, pp.83-92.
- 松本 曜 (1997) 「空間移動の言語表現とその拡張」田中茂範・松本曜『空間と移動の表現』pp.126-230, 研究社出版.
- 山田博志 (1998) 「フランス語にみる「場所」と「道具」の間」鷲尾龍一編『言語の普遍性と個別性に関する記述的・理論的総合研究』(平成7年度~平成9年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)(筑波大学現代語・現代文化学系), pp.81-90.
- (2005) 「道具と場所の間」東京外国語大学 グループ《セメイオン》『フランス語を探る—フランス語学の諸問題III』三修社, pp.48-59.
- (2007) 「道具と場所の中間領域をめぐって—フランス語を中心に—」『日本認知言語学会論文集』7, pp.98-108.
- ロワイヤル = ロワイヤル仏和中辞典 第2版 (2005) 旺文社.
- DMF = *Dictionnaire du Moyen Français*, <http://www.atilf.fr/dmf/>.
- Duden = *Duden : das große Wörterbuch der Deutschen Sprache* (1993-1995) Mannheim, Dudenverlag.
- Jackendoff, R. (1983) *Semantics and Cognition*, Cambridge, The MIT Press.
- Langacker, R. W. (1990) *Concept, image, and symbol : the cognitive basis of grammar*, Berlin/New York, Mouton de Gruyter.
- Oxford-Hachette = *The Oxford-Hachette French Dictionary* (1994) Oxford University Press.
- Ožegov, S. I. (1987) *Slovar' russkogo jazyka : okolo 57000 slov*, 18 izd, Moskva, "Russkij jazyk".
- Robert = *Le nouveau petit Robert* (2008) Dictionnaires Le Robert.
- SSJČ = *Slovník spisovného jazyka českého*, 2. nezměněné vyd. (1971) Praha, Academia.
- Talmy, L. (2000) *Toward a Cognitive Semantics, Volume 2, Typology and Process in Concept Structuring*, Cambridge, The MIT Press.

## The French Preposition *dans* and the Active Zone

Tohru HIRATSUKA

In the French expression *parler dans le micro* “to speak into the microphone”, the prepositional phrase only indicates the inside of the microphone. In equivalent expressions in other languages, the prepositional phrase explicitly expresses the path to the inside of the microphone: English (*to speak into the microphone*), German (*ins Mikrophon sprechen*), Czech (*hovořit do mikrofonu*), Russian (*govorit' v mikrofon*). But, in French, it is by inference that the inside of the microphone is interpreted as the goal of the path.

In the expression *parler dans le micro*, what moves, “the voice”, is not explicitly expressed, but implicitly implied by the verb *parler* “to speak”. This latent participant corresponds to Langacker’s *active zone*. The prepositional phrase indicates the place, which corresponds to the goal to which the active zone moves. The same explanation applies to other expressions: *souffler dans le micro* “to blow into the microphone”, *se moucher dans un mouchoir* “to blow one’s nose into a handkerchief”, *vider une bouteille dans l’évier* “to empty a bottle into the sink”, *mordre dans une pomme* “to bite into an apple”. In these expressions, the active zone is the breath, the nasal mucus, the contents of the bottle and the teeth, respectively.

**Keywords:** French, prepositional phrase, *dans*, goal, active zone